

# 防災から減災へ「災害に強いマンション」へ グリーン電源設備の導入を推進

「2050年脱炭素社会実現」へ、グリーンエネルギー自給自足モデルも確立

(一社)日本エネルギー設備保安推進協会 代表理事

近藤 豊嗣



新年明けましておめでとございます。ウイズコロナと地球温暖化の影響は人々の暮らしと社会生活において、待たなして大きな変革が求められて

おります。当協会では、非常用発電設備の1/3負荷試験の推進と負荷試験技術者の育成はもとより、本年は、既存マンションの災害対応力の強化が重

要と考え、公共インフラが途絶えてもマンションのLCD(Life Continuity Plan)に対応する電力供給を新たな使命として推進して参ります。事業主体である(株)辰巳菱機にて、施工したマンションが昨年、東京都のLCP住宅で三ツ星の認定を受けました。概要は、非常用電源(LPGガス発電機)と蓄電池で間欠運転を行いながら、停電時に

ELV一基、増圧ポンプの運転に要する電力が供給でき、蓄電池は非常時以外でも活用できます。LPGガスは劣化しません。今後、非常用電源は燃料電池への転換も実証していきます。脱炭素社会の推進にも貢献して参ります。電源設備は浸水回避できるような高台ステージに設置されています。このシステムが「でんまる君」(LCP型)です。既存マンションでは

非常用発電設備が設置されていないところが多く、設置されているも停電対策として発電設備の容量増加工事は莫大な費用がかかります。この「でんまる君」は20kW程度のシステムでトレーラー台車での移動が可能で、駐車スペース等での活用が可能となり、費用が高みません。新設マンション計画では、設置場所から提案して参ります。

「人生100年時代」に向け、新築、既存問わず、災害対応力を達成することで新しい価値を含んだ長く住み継がれる安心・安全なマンションとなります。「でんまる君」の活用がそれを可能にし、マンション所有者の皆様にはメリットとなります。災害対応力の向上で資産価値は向上します。今年、会員五十数社の皆様と共に、電源設備の保安推進にとどまらず、マンションに暮らす方々を守ること、新たな使命として、非常時の重要設備稼働のための電源供給の推進に取り組みます。日常の非常用電源設備の健康維持に取り組みながら災害に強い街づくり、脱炭素社会の実現を、負荷試験を通じて日本中に大きく広げることを使命として取り組んでいく所存です。地元江東区では「ゼロカーボンシティ江東区」を掲げ様々な取り組みが行われています。当協会も一丸となって推進していく決意をし、新年のご挨拶とさせていただきます。